

令和7年度 第1回 学校運営協議会 議事録

1 期 日 令和7年6月24日(火) 15:30~16:30

2 場 所 岩手県立金ヶ崎高等学校 会議室

3 出席者(敬称略)

小澤 賢 小原 明男 大森 啓睦 千葉 政芳 小原 拓也 有住 龍星

三森 健 佐々木順一 照井真由美 後藤 裕介 菅野 由香 千葉 一弘(書記)

4 次 第

(1) 開会のことば

(2) 校長あいさつ

(3) 協議会委員自己紹介

(4) 協議

(5) 意見交換

(6) その他

(7) 閉会のことば

5 協議の概要

■学校運営協議会制度等について

・副校長より概要について説明。

・第9条の委員の任期が現在2年となっているが、県の規約に合わせ1年に改定する。

■会長・副会長選出

会 長 小澤 賢 様(昨年度より継続)

副会長 千葉 政芳 様(佐藤様退任による新任)

■学校経営方針・学校経営計画説明

・校長より学校経営計画について説明。

・今年度の重点目標における達成指標について、昨年度は85%に設定しすべてクリアされた。これを受けて、今年度の指標はプラス2%、昨年度90%を超えたものは88%としている。

・アの達成指標「授業の内容がわかる」について、6月82%、9月85%、11月87%、年度平均87%であった。はじめ評価が高くて下がっていくことはよくあるが、本校では上がっている。先生方が生徒からの評価を踏まえて授業改善している結果である。

・エの目標「社会に開かれた」の指標が上がると良い。職員の働き方改革等でオンラインに向いているが、全世代に広報するのであれば、オンラインだけでは足りないのかもしれない。

■学校概況説明(学習・キャリア形成等)

・教務課より、教育課程・学習に関する行事・生徒数について説明。

・進路指導課より、進路指導の方針・昨年度の進路実績や傾向について説明。

・昨年度卒業生は大学進学が多い学年であった。短大・医療系専門学校・各種専門学校・就職の生徒もいる。ここ数年は、推薦や総合型での合格者が多かったが、昨年度は一般入試を受検した8名中8名が合格した。最後まで努力して取り組むことができた学年であった。

■高校魅力化推進への取組について（魅力化コーディネーター活動報告）

- ・地域と金高とのハブとなるように活動している。
- ・生徒がさらなる活動に進めるように助言や、昨年度はマイプロジェクトアワードに参加したグループの発表準備・サポートを行っている。
- ・金高はボランティアに手を挙げてくれる生徒が多い。地域や外部との接点が増えることはよい。

■意見交換

【委員】

- ・学校の生徒数が気になる。生徒数が増えるために何かいい方法があればいいのだが。
- ・運営協議会で助言でできればと思っている。

【委員】

- ・昨年度は中学校と高校で生徒レベルの交流があった。中2の生徒にアンケートをとるために高校生が来て説明してくれた。高校説明会にも来てもらった。そのようなことが入学に影響があるのであれば、中高での連携をしていきたい。
- ・4年制大学への進学率が高いということだが、何かきっかけはあるのか？それとも集団の特性か？
- ・学年全体として進学への意識が強かった。だからと言って勉強だけでなく、校外に向けた活動も積極的にできた。総探への活動が積極的にできた学年であった。
- ・学年の中に、学校内にとらわれずに活動をする生徒がいた。客観視できる生徒がいたことが学年に良い影響を与えた。
- ・目標設定がよかった。最後までどのように頑張っていくのか、1年間の取り組み方を考えられる生徒が多かった。目の前のものをこなすだけでなく、最初から一般入試でいくと考えてスパン毎にどうしていくのか、を考えられる生徒が多かった。お互いの頑張りを見て最後まで頑張れた。先輩の頑張りをうまくつなげられた学年であった。

【委員】

- ・魅力づくりということになるのかもしれないが、PTAでも制服についての話が出ている。
- ・地域とつながる、といったとき、行事を校外に発信するときに町内の回覧等でPRできないか、という話もあった。

【委員】

- ・校長あいさつの中で、クラスマッチで「自分が自分が」というような生徒がいなかった、という話であったが、そういう生徒のよいところをうまく発信できればよいと思う。

【委員】

- ・魅力化について、大人が頑張って伝えるよりも、生徒から湧き出たところから魅力が伝わるとよい。
- ・文化祭の告知をもうちょっと早い段階でしてもよい。

【委員】

- ・校舎に入っただけの感想は生徒が少ない。見方を変えると少数精鋭と考えることもできるが、良い悪い抜きで生徒は多い方がよい。
- ・魅力化コーディネーターは子どもたち、社会、学校をうまくつなげている。地域をにぎやかにしている。この新しい魅力を伝えて、地域・学校・世代の壁を越えて、お互いに行ってみたいと思えるように発信をするところからムーブメントが起こるのではないかな。

以上